

# 薬剤師のバージョンアップ

ファルメディコ株式会社 代表取締役社長  
医師・医学博士 狭間研至 先生

皆さん、こんにちは。今号から新しいテーマで連載を担当させていただきます。従来同様のご愛読を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## はじめに

さて、薬学教育が6年制となったという内的な要因に加え、超高齢社会の到来という外的な要因もあることから、薬局だけでなく、薬剤師のあり方は変わりつつあります。言ってみれば、これからの社会において求められると同時に目標とされるべき薬剤師のあり方を、現在の薬剤師のあり方と対比させる意味も込めて、私は「薬剤師3.0」と称しています。

とはいえ、「3.0って一体何だろう?」という方がほとんどだと思います。本稿ではまず、この「3.0」からお話しさせていただきます。

## 閉塞感のある現状を変えるために

ところで皆さんは、現在のご自身の業務についてどのように捉えておられるでしょうか。毎日、懸命に患者さんと向き合っている中で、いろいろなジレンマがあるのではないのでしょうか。間違わずに薬を調剤すること、その動作を正確に早くすること、そして分かりやすい説明とともに服薬指導を行い、一連の行為について遅滞なく適切な形で薬歴に記録することは、大変な作業です。しかも、薬物治療を正しく行う上で、医薬品が正しい形で患

者さんの手元にあることは重要です。さらに、適正に保険請求することで、保険薬局の経営が回るのです。

しかし、世間の目はなかなか厳しいのも現状です。「調剤パッシング」のような報道もさることながら、薬局店頭での患者さんとの対応や、日常業務での医師への疑義照会の現状などを思い浮かべると、ため息が出てしまう方も少なくないのではないのでしょうか?

そのようなとき、周囲の理解が得られないことや、現在の環境の不遇を嘆いてもなかなか根本的な問題にはなり得ません。やはり、現状を変えるために自らが変化して、周囲を改善していくことが求められると思います。とはいっても、それがなかなか容易ではないと感じられませんか。

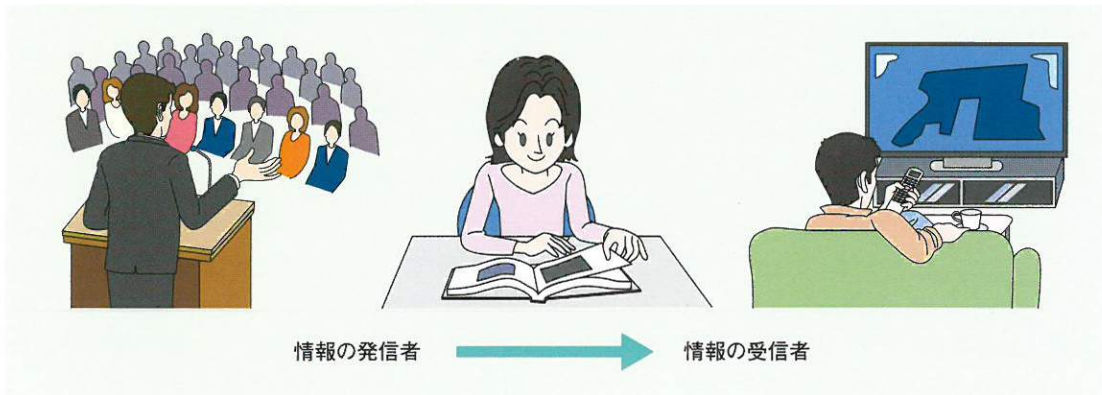
そこで、私自身が感銘を受けたのが「世代が変わる」という考え方です。

## web2.0という衝撃

今から10年近く前の2006年になりますが、アメリカのティム・オライリーという方が「web2.0」という概念を発表していることをある本で知りました。その昔、windows3.0というものがあったので、まあ何らかのバージョンの話だろうと思いつながらその本を読み進めていたのですが、中身はかなり衝撃的でした。

webはメディアの一つで、情報が伝達されるための手段です。有史以来、情報は発信者と受信者が固定されていました。それは、紙媒体ができて、ラジオになっても、映画になっても、テレビになっても同様です(図1)。

図1. 発信者と受信者が固定されている情報伝達



windows95が発売されて以後、インターネットは少しずつ普及していききましたが、この発信者と受信者が固定された状況は変わりませんでした。なぜなら、インターネット上で閲覧できないいわゆるホームページのようなものを作ることは、本や雑誌、新聞を印刷したり、ラジオやテレビの番組を制作して放送したりするのと同じように、一般の方には難しいことであったからです。2000年頃からホームページ(従来に比べれば)簡便に作るためのソフトが多数発売されるようになったり、各インターネットプロバイダーが会員向けにホームページ作成サービスを始めるようになったりしましたが、基本的にインターネットを利用した情報発信は一般の方にとって容易ではありませんでした。

しかし、2005年頃からこの状況が変わります。それは、ブログ(Blog)サービスが始まったことです。これにより、インターネット上への情報発信の仕方は格段に簡単になり、誰でも情報を発信できる時代になりました。すなわち、誰もが情報の発信者になったと同時に、誰もが情報の受信者になったのです。このように、情報の伝達の仕方が変わったことにより、ほぼ全ての知識は、インターネットのこちら側(発信者の頭の中)から、あちら側(インターネット上のどこかのハードディスク)上に集積されるようになりました。このことと検索エンジンの発達とがシンクロしたとき、私たちの知識の入手の仕方は大きく変わりました。分からないことがあれば、そのキーワードを検索サイトに入力すれば、その内容の真偽や信頼性は別として、誰かが、どこかで、いつか書いた情報や知識を入手することができるようになったのです。

現在、SNSが発達・普及し、さらにこの傾向は加速していますが、そのきっかけになった頃(2004年)に提唱されたのが「web2.0」という概念であり、これがインターネットのもたらす本質的な変化の一つだったのです。

## 薬剤師のバージョン?

このように変化の本質を捉えることができれば、目の前に広がる情景が一変します。また、現在起こっている事象の根本的な問題に気がつくことができます。

「web2.0」の考え方は、薬局や薬剤師のあり方に悩んでいた私にとって、非常に魅力的で興味深く映りました。振り返ってみて、医薬品や医療用品を扱う町の商店のような薬局を第一世代、今の調剤薬局を第二世代とすると、それぞれの薬局でその職責を果た

図2. 第三世代に移行しつつある薬局と薬剤師



す薬剤師も、それと同じように変わってきたのではないかと考えました。それを「1.0」、「2.0」と表すとすると、確かに、OTCや医療用品を販売する「薬剤師1.0」と、いわゆる調剤薬局で医薬品を正確・迅速に調剤する「薬剤師2.0」とでは、全く異なります。

今、わが国では高齢化と少子化が同時に進行する時代を迎え、国が社会保障制度をどのようにメンテナンスしていくのか、その詳細はまだ明らかではありませんが、薬局のあり方は「3.0」ともいべき形に変わろうとしています(図2)。それにもかかわらず、今まで通りのあり方である「薬剤師2.0」としての枠組みの中で考えようとするから、様々なジレンマや閉塞感が出てくるのではないかと考えました。逆に言えば、薬剤師についての考え方も、webが1.0から2.0へと移行したように、薬剤師2.0から3.0へと移行していくのだと考えれば、現在感じている様々な問題や課題は氷解していくのではないかとというのが、私の実感です。

## 「薬剤師3.0」を実現するための処方箋

今、全国の医療現場では、在宅や外来、そして薬局や病院を問わず、従来とは異なる形で活躍する薬剤師が見られるようになってきました。私自身が代表を務める薬局だけでなく、私が理事長を務める一般社団法人日本在宅薬学会の会員の薬局でも、それぞれが専門性を発揮し、従来感じていたジレンマが雲散霧消するような現象が起こっています。それら一つ一つの事例は、偶然が重なったり自然発生のようにだっさりに見えますが、実はそのような変化を引き起こす共通の仕組みやシステムがあるようにも感じています。

本連載では、そういった事象から私自身が感じているポイントをまとめ、薬剤師が2.0から3.0へと移行するための処方箋として解説したいと思います。ぜひ、お楽しみになさってください。